

大阪は「まち」がほんまにおもしろい

大阪 OSAKA あそ歩 ASOBO

くだ 下り酒を積んだ樽廻船 ～鴻池ゆかりの地・伝法を歩く～

中世末期に河港として開かれ、江戸時代に樽廻船や菱垣廻船が出港したまち・伝法。安治川が開削されるまで大坂の水運の玄関口として栄えたことを今に伝えるスポットを巡るまち歩きです。

1 森巣橋

文久3年(1863)に備前藩によって架けられた森巣橋は、鴉宮の元の名である傳母頭(もりす)神社の名を保存する為に名付けられました。豊臣秀吉が八咫鳥にちなんで傳母頭神社を鴉宮と改めた際、木々が茂って鴉の巣のような形をしていた所を選定し遷宮したと伝えられています。

2 鴉宮

建保3年(1215)に、村と港の繁栄を祈念し、傳母頭(もりす)神社として鎮座しました。文禄元年(1592)に豊臣秀吉が出兵した際、安全を祈願するや、八咫鳥が軍船の前後を飛んで船を守ったと言われています。これに感激した秀吉が、帰国後、神社名を鴉宮と改め、現在地に遷宮したと伝えられています。鴉宮本殿、拝殿、中門及び透塼は、国登録有形文化財(建造物)に指定されています。

3 鴻池組旧本店・旧本宅

鴻池組創業者の鴻池忠治郎は、明治4年(1871)に伝法にて建設業と運輸業を開始しました。明治31年(1898)には淀川改良工事に従事し、後の鴻池組発展の基礎を築きました。鴻池組旧本店の建物は明治43年(1910)に建てられたモダンな木造洋館で、明治から大正にかけて流行したアールヌーボー様式を取り入れており、昭和57年(1982)に日本建築学会から全国主要建築物に選定されました。旧本宅は明治42年(1909)に建てられた町屋風の建物です。

4 湊標住吉神社

延暦23年(804)に遣唐使の航路安全を祈願する祭壇が造られ、一行の帰りを迎える目的で湊標を立てたのが始まりです。河港の伝法口の賑わいと共に、土地の守護神・海上交通安全の神として社殿境内に整えられたと伝えられています。

5 日本鑄鋼所跡

住友金属工業の前身である日本鑄鋼所は、日清戦争後に国内重工業が発展し、鉄鋼需要が高まる中、明治32年(1899)に鴻池組によって建設された我が国初の本格的な製鉄所で、翌年4月に初湯されました。伝法小学校校門の内側に碑が建てられています。

6 伝法山 西念寺

大化元年(645)に天竺南山道有律師の教伝により、法道仙人が伝法伝道場を建立したのが始まりと伝えられ、大同元年(806)に空海が中興しました。鎌倉末の嘉暦3年(1328)以後、四宗兼学の寺となり、摂・河・泉三国の四大本山として栄えました。日本三大船祭の一つ「流漕頂・川施餓鬼」と11月14日「お十夜とのおべ焼き」の伝統行事を残しています。

7 庚申堂

明暦4年(1658)に国家安泰、五穀豊穡を祈願して建立された愛宕神社の中に庚申堂はありました。愛宕神社は明治42年(1909)に湊標住吉神社に合祀されることになりましたが、地元の強い要望もあって庚申堂だけが残り、申を施した彫刻の飾りがあるところから申神社とも呼ばれ、今も人々の信仰を集めています。

8 伝法水門

伝法水門は昔の伝法川の河口です。明治6年(1873)に、度重なる洪水や高潮などの水害を防ぐために行われた淀川改良工事に伴って伝法水門が完成しましたが、この地域の工業化が進んだことで地下水が多く使われ、地盤沈下が激しくなりました。そのため水門としての機能が失われ、昭和39年(1964)に水門に代わる伝法水門が設けられました。

9 下り酒

慶長4年(1599)に伊丹の酒造家・鴻池新右衛門が陸路を馬で運んだのが、清酒の江戸送りの最初と言われています。大坂や伝法も酒造地でしたが、江戸初期には特に伊丹や池田が酒の銘醸地として知られ、上方から江戸へ送られた酒は、江戸近郊の地廻り物に比べて品質が良く、「下り酒」と呼ばれ、江戸の人々が愛飲しました。伊丹・池田からは馬と天道舟を用いて伝法に運ばれ、樽廻船に積み換えられました。江戸中期以降には灘や西宮が酒造地として台頭し、次第に「下り酒」を代表するようになりました。

10 樽廻船

江戸時代に入ると、一大消費市場となった江戸と物資供給地である大坂間を結ぶ海運業が発達しました。元和5年(1619)に堺商人が紀伊国富田浦の廻船を借り受け、木綿や油とともに酒を混載して江戸へ送りました。これが菱垣廻船の起源と言われています。伝法では、正保年間(1644～1648)に酒荷を主として雑貨を混載する伝法廻船が大坂廻船問屋によって仕立てられ、その後、万治元年(1658)に北伝法の佃屋与兵衛が伝法最初の廻船問屋を開業しました。寛文元年(1661)には大坂・伝法の両所に酒荷専門の廻船問屋が現れ、伝法では特に200～400石積みの「小早」と別称された廻船・伝法船を独自に仕立てました。これが樽廻船の起源と言われています。樽廻船は、四斗樽の酒樽のみを積み込んだために荷役作業時間の短縮が図られるとともに、他の荷物との混載による荷損が少なく、スピードと安全面で菱垣廻船を圧倒し、次第に荷物を奪ってゆきました。廻船は、延宝年間(1676～1680)には400～500石積み、その後1000石積み、幕末には1800石積みへと大型化して行きました。



12 正蓮寺

寛永2年(1625)、正蓮日實が小庵を建立したのが始まりと伝えられています。かつては七堂伽藍が備わり、大阪25カ寺に数えられていましたが、火災や地震のために滅失し、現本堂は明治7年(1874)に建てられたものです。毎年8月26日に行われる川施餓鬼は、享保6年(1721)に始まり、日本三大施餓鬼の一つとして江戸時代から有名で、大阪市無形民俗文化財に指定されています。古くは天神祭を凌ぎ、「暑い暑い天神祭、あついあついても施餓鬼まで」と語られる程、有名であったそうです。

11 伝法川跡碑

中世末期に河港として伝法口が開かれ、伝法は江戸時代に入ると大坂の水運の玄関口となりましたが、安治川の開削によって港としての機能は衰退しました。また、新淀川開削によって河川としての役割もなくなり、長さ890メートル、川幅60メートルあった伝法川は昭和28年(1953)には完全に埋め立てられてしまいました。